

私の履歴書

釜本 邦茂

②

サッカー人生で一番つらかったのは全盛期に肝炎に倒れたことでも終盤にアキレスけんを切ったことでもない。G大阪の監督を続けられなかったこと。そう言えるくらいの深手を負った。1995年1月に辞任。すると傷心を癒やす間もなく早大の先輩である自民党の森喜朗幹事長から電話がかかってきた。「早いとこ準備しろ」。

「先発に選ばれた」と思えば気分は良かった。この時は比

「スポーツ発展へ」議員に

W杯日韓共催実現に尽力

比例代表の名簿は11番目。で日本に来るのが半分の16チームになっても昔はその数でやってたわけだし」と受諾やむなしの意見を述べた。共催

同年夏の参院選比例代表に自民党から立てというのだ。

参院選に出る話はヤンマー退社直後にもあった。だから今、澤穂希がターゲットにされるのも分かる気がする。今

後の身の振り方を森さんに聞かれ、「2002年ワールド

副会長になった。この間、印象に残ることといえば、96年5月31日にW杯の日韓共催が決まったスイス・チューリヒの一連の出来事になる。私はW杯招致議連の一員として宮沢喜一会長、衛藤征士郎議員らと現地入りしていた。

国際サッカー連盟（FIFA）が突如示した共催案は熱い議論になった。私は「共催

で日本に来るのが半分の16チ

ームになっても昔はその数で

やってたわけだし」と受諾や

むなしの意見を述べた。共催は提案というより半分は脅しだと感じたからだ。逆らえば欧州の票は全部韓国に回すぞと。ルールにない共催を押しつけたあたりからFIFAの腐敗は始まった気がする。

6年間の議員生活は牛歩戦術とか面食らうことが多かつ

た。恩師のクラマーさんに「クマ」といわれたがウシになると思わなかった。右も左も分らない私が頼りにしたのは同じ新人でも県議出身で事情に通じた宮城県選出の亀谷博昭さん（故人）だった。



森さん⑤の要請で参院選に出馬

森内閣の00年に労働政務次官を拝命した。が、2度目の選挙はあえなく落選。最初の選挙は党名を書くだけで良かったが、01年の比例選は党名と比例候補者名のどちらでも可の非拘束名簿式に制度が変わった。こうなると党におん

ぶに抱っこではすまない。選挙終盤になって、ある宗教団体が私の名前を書いてくれることになったから大丈夫だといわれた。が、制度の変更が浸透しておらず「自民党」と書いて無駄になったという話も後で聞かされた。

落選するのは本当につらいものだ。投票してくれた有権者、支援者に対する申し訳なさでいっぱいになる。全国区で活動するから選挙資金もばかにならない。他の候補者の応援に行く時は重宝がられるけれど、スポーツ出身議員に強力な支持母体はない。日本におけるスポーツの立ち位置と似ていなくもない。

それでも1期6年の議員生活は得難い経験もたくさんさせてもらった。法案をつくる過程で案がどうやってもまれていくのか、日本という国、民主主義というものを実地で学ばせてもらった。

（日本サッカー協会顧問）